キズナエピソード

及川依子　5話

//背景：黒

//ヴィジュアルノベル形式開始

『恋愛禁止を掲げていたアイドルの恋愛』

これほど世間を喜ばせるのに事欠かない話題もなく、

ネットでは至る所で依子への誹謗中傷が書き込まれていた。

俺自身もSNSのアカウントを特定され、

結果的にアカウントの削除を余儀なくされた。

依子の事務所は早々に謝罪文を公式HPに掲載。

依子のアイドル活動をしばらく自粛することで

事態の沈静化を図るようだった……。

//次ページ

……俺は自分が許せなかった。

彼女の力になりたくて、ずっとそばにいるって決めたのに、

むしろ彼女の足を引っ張ってしまったのかもしれない。

自分に今、何ができるだろうか……。

彼女が不安になっているであろう今、

そばにいてあげることができないのが何より悔しかった。

だから、依子から電話がかかってきたとき、

どんな愚痴だって聞こう。なるべく普段通り接してあげよう。

俺はそう心に決めて電話に出たのだった。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

//とびお自室

［依子］

「……とびお。ひさしぶりー」

［とびお］

「よぉ、依子。ひさしぶり！

愚痴言いたくなったのか？

付き合うぞ」

［依子］

「……そうなの。

溜まりに溜まってしょうがないの。

けど、なにから言ったらいいか……」

［依子］

「とびお、大丈夫だった？

写真で顔バレしてたよね」

［とびお］

「あー、まぁな。同級生からは羨ましがられたよ。

ただあの写真、角度が気に入らないんだよな。

どうせなら斜め45度から撮ってほしかった」

［依子］

「あはは、それね。イコも思ったー。

なんか悪意バリバリの写真だったよね。

……実際、悪意を感じたよ。あのクソ後輩からは」

［とびお］

「後輩……ってあの子か。俺も会ったよ。

たしかにちょっと変わった子だったな。

あ、もしかして俺達の関係ばらしたのって――」

［依子］

「そ。証拠はないけどね。

ただ、こういうのあの子がライバルを蹴落とすときの

常套手段だから。」

［依子］

「……ねぇ、とびお。イコの事、責めないの？」

［とびお］

「え？　どうして、お前を責める必要があるんだ？」

［依子］

「だって、イコのせいでとびおに迷惑かけちゃったし。

イコに怒りぶつけてもいいんだよ？」

［とびお］

「何言ってんだよ、お前らしくないな。

俺が怒りをぶつけるわけないだろ。

むしろイコの方が本当の被害者じゃ……」

［依子］

「……なんで責めてくれないの。

イコの、イコのせいなのに……」

［依子］

「ねぇ、とびお。

やっぱりイコ達、ただの友達の関係に戻ろう？

そのほうがいいと思うから」

［とびお］

「え、なんで――」

［とびお］

だが尋ねるより早く、電話は切れてしまった。

［とびお］

この展開を予測しなかったわけではない。

それも含めて何があっても彼女を受け入れると、

そう覚悟して望んだはずだ。

［とびお］

それなのに……俺は気づけば泣いていた。

//暗転

//依子の部屋

［依子］

（これ以上、とびおに迷惑なんてかけられん。

とびおが大丈夫じゃっても、イコの方が苦しいけん……。

ウチ……罪悪感で押しつぶされそうじゃわ……）

//暗転

//ライブ会場・舞台裏

［］

スキャンダルから数日後

ライブ会場

［依子］

「……」

［マネージャー］

「依子、緊張してるの？

大丈夫。あなたの活動再開を

ファンのみんなは温かく受け入れてくれるわ」

［マネージャー］

「その証拠に、満員御礼よ。

みんなあなたが帰ってくるのを待ってたのよ」

［後輩アイドル］

「えー。

ファンのみんなは、私のこと見に来たんだよ～？」

［後輩アイドル］

「せっかくファンが温まってるんだから、

冷ますようなマネはしないでくださいねぇ、先輩？」

［依子］

「……」

//依子退場

［後輩アイドル］

「くふふ。緊張してる緊張してる！

あれは失敗するねー。どうなるか楽しみー」

//暗転

//ライブ会場・ステージ

［依子］

（ここに立つのは、久しぶりね）

［依子］

（さぁ、ファンのみんな。見て！　聞いて！

あなた達のこと、精一杯楽しませてあげる！）

//暗転

//ライブ会場・舞台裏

［依子］

「……ふぅ」

［マネージャー］

「お疲れ、依子！　もう完璧！

すごく良かったわよ！

ファンたちの歓声も鳴り止まないわ！」

［依子］

「ありがと。

イコも今日はイコなりの覚悟を持って挑んだから。

これくらいは当然！」

［後輩アイドル］

「ふ、ふーん。何をいい気になっているんだか。

先輩には聞こえませんでした？」

［後輩アイドル］

「先輩が歌う前と後に、

『処女膜から声が出てない』とかさんざん

ファンたちが罵声を――ひっ！」

［依子］

「おい、われ。

取り巻きのメンツくらい毎回変えぇや。

さすがに何度も聞いとったら、声覚えるわ」

［後輩アイドル］

「……なんのことだか、わかんなーい」

［依子］

「うっさい！　ウチ達はなんだ？　アイドルじゃ！

こすい手ばかり使わんと、

正々堂々アイドルとして勝負せぇや！」

［後輩アイドル］

「ふ、ふーん……正々堂々アイドルとして勝負？

それじゃあ、もうすぐアイドルフェスがあるから、

会場をより盛り上げたほうが勝利、とかしますかぁ？」

［依子］

「おどりゃぁ……上等じゃ！」

//ADV形式終了

//5話終了